

インフルエンザ情報

国立感染症研究所感染症情報センター（<http://www.nih.go.jp/niid/ja/from-idsc.html>）は、「インフルエンザ流行マップ第18週（4月29日～5月5日）平成25年5月8日現在」を平成25年5月10日に公表した。

（コメント）

2013年第18週の定点当たり報告数は2.36（患者報告数11,442）となり、前週の定点あたり報告数3.07よりも減少した。

定点医療機関からの報告をもとに、定点以外を含む全国の医療機関をこの1週間に受診した患者数を推計すると約12万人（95%信頼区間：9万人～15万人）で減少した。年齢群別では5～9歳が約3万人、10～14歳が2万人の順となっている。また、2012年第36週以降これまでの累積の推計受診者数は約1,343万人（95%信頼区間：1,312万人～1,374万人）であった。

都道府県別では宮崎県（6.56）、大分県（5.86）、福岡県（5.20）の順となっている。7県で前週の定点あたり報告数より増加した。

全国の保健所地域で警報レベルを超えているのは2箇所（1県）、保健所地域で注意報レベルのみを超えているのは14箇所（12道府県）と、共に前週より減少した。

2013年第13週から第17週の国内のインフルエンザウイルスの検出状況をみると、B型が最も多く検出されており、次いでAH3亜型、AH1pdm09の順となっている。詳細は感染症情報センターホームページ（<http://www.nih.go.jp/niid/ja/iasr-inf.html#graph>）を参照されたい。

なお、第14週～第18週までの都道府県別の定点当たり報告数の推移【感染症情報センター発表の「感染症発生動向調査週報」等を基に機構で作成】

※定点とは、発生動向調査の観測用に選ばれた医療機関のことで、地域の流行状況について全体の傾向を可能な限り反映できるように、保健所ごとに設定されています。

